

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	法学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 学生の学修ニーズに合わせて教育効果を高めるような専門科目の履修を促進する。	→履修説明の実施回数と、履修モデルの提示	B
2. 演習科目のメニュー・数を増やして各年次に系統的に配置する。	→演習の種類・開講数と履修登録率・単位取得率	B
3. 各専門科目の履修年次を見直し、効果的に配置する。	→履修年次を変更した科目の履修登録率・単位取得率	B
4. 早期卒業をつうじたジョイント・ディグリー取得や大学院進学を奨励する。	→複数分野専攻制（MDS）履修者数（他学部生の履修者数、法学部生の履修者数）、早期卒業によるジョイント・ディグリーの取得者数（他学部生の法学士取得数と法学部生の他学部の学士の取得者数）、大学院進学者数（法学研究科・司法研究科への進学者数）	B
5. 各年次の履修科目登録数の上限を設定し、系統的・効果的な履修を可能にする。	→学生の各年次の単位修得状況	B
6. 少人数教育の専門科目を系統的に配置する。	→少人数教育の科目の開講数、履修登録率・単位取得率	B
7. 到達目標・シラバスの内容を明確化・詳細化し、授業内容との整合性を図る。	→授業内容の満足度調査、およびシラバスとの整合性に関する調査	B
8. 適正かつ厳正な成績評価を確保する。	→成績評価・成績分布調査結果の各教員への周知	B
9. 学習会・研究会などの企画をつうじて各教員に授業方法を検討する機会を増やす。	→FD（ファカルティ・ディベロップメント）やカリキュラム検討のための学習会・研究会の実施回数・参加人数	A
10. 個別学修相談の機会を増やす。	→個別学修相談の件数	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

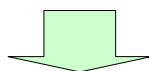
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.3.1	(方針) 教育方法および学習指導を適切なものとする。 (現状説明) 教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用、履修科目登録の上限設定、学習指導の充実学生の主体的参加を促す授業方法について、拡大カリキュラム委員会およびFD研究会において、検討を進めている。
☆ 小項目6.3.2	(方針) シラバスに基づいて授業を展開することを促す。 (現状説明) シラバスの作成はもちろん、到達目標の設定や内容の詳細な記述など、シラバスの内容の充実するよう各教員に周知徹底している。授業内容・方法とシラバスとの整合性についても留意を促している。
☆ 小項目6.3.3	(方針) 成績評価と単位認定が適切に行われるようにする。 (現状説明) 厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）、単位認定の適切性について検討を進めているところである。
☆ 小項目6.3.4	(方針) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつける。 (現状説明) 授業の内容および方法の改善を図るために、FD研究会を実施している。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価（1）】効果が上がっている事項

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	



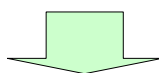
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価（2）】改善すべき事項

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○FD研究会等の実施状況が「A」である点は評価できます。

○6.3.4の(方針)「教育成果について定期的な検証を行い」とありますが、検証システムが不明です。

【学内委員】

○進捗評価は、目標の達成を基準としているので、現時点で評価がAあるいはBである目標については、より上位の目標について検討することが期待されます。

○順調に進捗している状況と判断されますが、「効果が上がっている事項」または「改善すべき事項」のいずれかに何らかの記述があった方が望ましいと思われます。

○大学基準協会の「評価に際し留意すべき事項」(ハンドブックP78～)において、水準評価として数値による評価がなされるものに注意してください。「3-1. 学士課程の教育内容・方法(2) 教育方法 ②1年間に履修登録できる単位数の上限を50単位未満で設定している」については、本水準を満たしていない学年があり助言対象となる場合があります。改善に向けご努力ください。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 小項目6.3.4の(方針)について、FD研究会での検討や学生に対するアンケート実施などをつうじて、教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつける。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.3.0.S1	大学院生の論文件数(査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
6.3.0.S2	履修者数規模別の授業科目数(少人数・中人数・大人数)
6.3.0.S3	少人数授業の授業形態の調査
6.3.0.S4	規模別講義室・演習室使用状況
6.3.0.S5	マルチメディア教室の稼働率
6.3.0.S6	遠隔授業を活用した授業の比率
6.3.0.S7	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答の比率
6.3.0.S8	定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
6.3.0.S9	一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
6.3.0.S10	日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
6.3.0.S11	各年次 Semester ごとの履修単位数制限の状況
6.3.0.S12	成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
6.3.0.S13	GPA値(全学、学部別、男女別など)
6.3.0.S14	履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
6.3.0.S15	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S16	オープン授業(授業公開)の全授業における割合
6.3.0.S17	学生の授業評価の実施率(全学、学部別)
6.3.0.S18	学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S19	在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
6.3.0.S20	在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
6.3.0.S21	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(キリスト教関連科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S22	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(語学)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S23	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(一般教養的な授業)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S24	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(専門科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S25	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(ゼミ)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率

<個別的な指標>
